

弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第3回)			
日 時	令和2年8月25日(火曜日) 18時00分～20時00分		
場 所	弘前市役所市民防災館3階防災会議室	傍聴者	5人
出席者 (20人)	委員 (13人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、 野口委員、下山委員、秋元委員、小山委員、大西委員、 鴻野委員、大塚委員、斎藤委員、 宇野委員、青山委員、柴委員	
		執行 機関 (7人)	市民協働課
	企画課		竹浪総括主査、下山主査
会議概要			
1. 開会			
2. 議事			
<p style="text-align: center;">条例に関する事業の実施状況の評価及び改善点等について審議</p> <p style="text-align: center;">学生力が発揮されるまちづくりの推進のための取り組み</p> <p>(説明 ・ 第2回審議会での主な意見 (報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局が考える学生の特徴 ・ 2019年度における「市と学生の関わりがある事業」 <p>(審議No. 1: 「学生力」とは何か。)</p> <p>(審議No. 2: 市と学生の関わり方について)</p> <p>【各委員の意見等】</p> <p>会 長: 学生力とは何かということについてです。今回、市から受けている諮問事項が、学生力が発揮されるまちづくりの推進のための取り組みとなっており、そういう意味で我々が学生力をどう捉えるかという点も諮問に答えることになろうかと思えます。参考として、事務局よりたくさんあげていただいておりますが、皆様からご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。</p> <p>委 員: まず、「柔軟な発想力がある」というところは「しがらみがない」というところも大きいと思えます。そこも学生の強みだと思いました。次に、「市外出身者も多い」というのは、表現を「出身地が多様となっている」と</p>			

したほうが良いと思いました。次に、「教授の存在が大きい」というのは、教授よりも教員という表現が良いと思いました。また、学生の中には社会人経験を身に付けている人や社会人入学している人もいるので、これは皆さんと議論してみたいと思っていました。最後に「学業、アルバイト、サークルなど忙しい」というのは、これは私の個人的な意見ですが、「時間の使い方が苦手」というところがあるのかなと思います。中には、時間の使い方が上手な人もいますが、時間の使い方が得意、苦手というのもあるのかなと思いました。

委員：出身地が多様という意見がありましたが、市として考えていかなければいけないのは、市外出身者も多いですが、市外居住者も多いというところも大事だと思います。つまり、居住人口だけでなく、交流人口として見ていかなければいけないと思います。また、「大人、役所が考えている像と違う」というところもあると思います。大学コンソーシアムに「いしてまい」という学生団体があり、自分達が普段活用したい飲食店や洋服屋など街の中にある店を紹介するガイドマップを学生目線で作ったことがあります。学生目線で見て、ラインナップされた店は、市長や市職員が考えている土手町、鍛冶町の店ではなく、大学生の文化の中で引き継がれ、育まれてきた店です。鍛冶町のように店が連なっている所は行きにくいというのがあります。こういう学生の意見を反映させることは大事で、鍛冶町や土手町に来て欲しいからというのとは違うということや、行政や大人が思っている学生の像とは実際違うということを出しておくことで学生力を思い浮かべ易いかなと思いました。同様に、地域づくりに関心がある学生が全てではないというの、大人が期待している像とは違うと思います。

委員：協働によるまちづくり基本条例のガイドブックを見ると、協働の基本原則に住民自治の原則があって、自分達のまちは自分達で作っていくことを進めていきたいと考えています。そこに、学生が入っていることが弘前市の特徴であって、学生力を考えた時に、協働の主体として学生が入っている弘前市において、学生に何を求めるのか、学生が何を求めているのかが曖昧なまま議論が進むと、また元に戻るのではないかと考えています。学生は「自分達のまち」だと思ってくれているのかなと。

まず、大人にできることは学生に弘前の一員だということをしっかり理解してもらい、このまちで暮らして学べて幸せだと思ってもらえるような働きかけが必要ではないかと思います。その中で学生が持っている力といえば、学生は元気ですし、学生の動向を知ることは次の時代に何が来るかがわかるので、10年先が見える。データはありませんが、学生が良いと思うものはその後に流行るものだと思います。次の子育て世代、活躍世代の人達が何を求めているかをいち早く知ることができることは、市としても次にどんな施策を展開すべきか先読みをできることにつながると思います。既にあるものを後追いするのではなく、次に何をすべきかを考えるきっかけをくれるのが学生力ではないかと思います。また、弘前市が学生をまちづくりの主体のひとつとして位置付けたことは、とても大きいと思います。学生も尊重し、次の世代の人を育てていくことはお互いにとってよりよい市を作ることにつながると思います。そして、学生と関わりのある事業がたくさんありますが、毎年少しずつニーズは変わっていくので、少しずつ良いアイデアを出して改善していけば関心を持ってもらえるのではないかと考えています。お互いに何ができるかという目線で学生力を考えていくと肯定的で建設的な議論の場になると考えます。

委員：学生に学生力を発揮してもらおうと考えた時、学生はいったい弘前市に何を求めているのでしょうか。市役所の各課は、とても多くの事業で学生と関わっていますが、今後は学生が弘前市で何をしたいかを考える場があってもいいのではないかと考えています。学生が動くということは、より一層学習につながると考えますし、そういうのが特徴だなと。学生の意見を聞くだけでも、参考になることがたくさんあると思います。

委員：教員ですら把握できないような学生の多様な活動があると感じています。教員、行政として把握する必要があるかというのがありますが、学生は大人が知らないところで様々な活動をしていると思います。

会長：確かに、我々の把握していないところでたくさん活動しているかもしれませんね。それでは第2の議題に入ります。市では、人材育成から始まり、非常に多面的に学生と関わっています。資料3-2が現在の市を示

している資料となっております。まずは、人材育成ですが、これについては市について情報提供しているものだと思います。先ほどの話し合いでも、何よりもまず学生に市のことを知ってもらうことが大事だとありました。(1)は大学の講義等に市長や市職員が参加しているもの、(2)は市のイベントに学生が参加しているということで分類しております。市について知ることがまちづくりへの第一歩ということで、市についての情報提供の方策として、より良い情報提供の仕方がないか、そのほか学生に市のことを理解してもらうために何か方法はないかということについて意見いただければと思います。

委員：資料3-2の3ページ目の学生の実習受け入れについて、博物館と高岡の森弘前藩歴史館の実習生受け入れは、1つのプログラムなので、まとめた方が実態に合うと思います。インターンシップ事業については、大学によってはインターンシップに行っても単位になる人とならない人がいます。それは受け入れ側ではわからないと思います。本人がインターンシップの科目の履修登録をして事前・事後指導を受けて実施する場合と、ただ単にインターンシップを受ける場合があります。市側では、職場体験という意味で受け入れるといいと思います。そういう意味では、今回は市側ではどのように受け入れているかについて議論すればいいと思います。

会長：例えば、実習の受け入れなども大学から頼まれて、受け入れるというのではなくて、この情報提供の視点から考えれば、博物館も公民館の職員も将来の職員を育てるという意識と、せっかく博物館や公民館に来てくれて、公民館を使って勉強するのだから、博物館の特徴や弘前市を知ってもらうような意識を持って受け入れる。単に、実習を大学から頼まれたから受け入れるというだけではなく、博物館の職員も弘前市のことについても知ってもらおう、好きになってもらおうという視点を持って受け入れるといいのではないかと、そういう情報提供の仕方をしていくことも必要ということですね。

委員：この実習も単にその日だけ行くというよりも、単位の一環なので前期授業なら授業の1コマをやってから、夏休み実習に行くようになっていま

す。それが資格課程のうちの1つで、資格取得へのプロセスの中で、市と関わり、市の特徴を知る機会もありますし、実習前に、市職員が授業に来て教育委員会の特徴や、公民館の位置付けについての説明を組み込んでいますので、ただ単に学生を出すというだけではなく、全てが学びにつながるという形です。また、弘前の学生には弘前市民ではない人もたくさんいます。ただ、どこに行っても市民意識を持つことができる。大学時代に弘前市で教わったから自治意識があるという人が出ていけば良いと思っています。学生達が大学生活の中で社会と関わる時に、市民意識を持つことに対してのプロセスは、実習や授業への参加を通して意識していければと思います。また、学生が地域と関わるのは、市だけが相手ではないです。まち歩きガイドに手伝ってもらってまち歩きを実施するなど、直接民間企業とつながって授業の中身に地域の材料を使うこともあり、それはそれで学生を育てようと社会参加になるわけだから、それら全てに市が媒介するとなると、結局、市が関わらないとできないのかとなり、民間の力を削ぐことにもなるのではないかと思います。教員の中にはあまり市との関わりがないかたもたくさんいて、そういう人達に対しての相談窓口が必要だと思います。その情報が、例えば大学コンソーシアムのパンフレットなどで紹介されていると、教員が市と関わりやすくなり、学生達が地域に関心を持つような授業を作りやすいと思います。

委員：市と学生の関わりは、市といっても市役所だけではなく、市民活動団体とかいろいろあると思います。あまり協働のまちづくりは意識していないけれども、地域活動に参加しているという例はあると思います。例えば、弘前市民文化祭には、学生団体がいくつも出ています。交響楽団、吹奏楽団、合唱団、津軽三味線同好会など、それからさくらまつりには弘前大学からねぷた愛好会が出ています。このように、学生が直接地域のいろんな活動に入っていることは見ておかななくてはいけないと思います。

会長：その実態把握は、なかなか難しい。

委員：学生は決して、協働のまちづくりをしようと思ってそういう活動をして

いるわけではないと思います。せっかく弘前に住んでいるので、例えば市民文化祭などに私達も参加したいだとか、実際に大人に混じって一緒に活動しています。それが地域活動に参加するということです。また、市と学生の関わり方について、(1)から(5)に分類していますが、そこに入らないものもある。でも、実際に学生と地域は関わりを持っているわけですから、それは把握する必要がある。さらにそれを発展していくにはどうしたらいいかってことがあってもいいと思いました。

会 長：わかりました。学生と市だけではなく、ここでは把握しきれていないものもありますので、そのようなことも把握していく必要があるのではということですね。学生と市ではなく、学生と町会や市民団体のつながりもたくさんあると思います。

委 員：(1) 大学側が企画のところは、3つ位に分類できるかなと思っていました、大学の教員が企画したもの、大学の職員が企画したもの、学生が主体的になって企画したものに分けられるのかなと。中には、学生主体でやって、市の職員と連絡調整しながら連携して進めている企画も結構あると思います。また、教員が企画という部分で見ると、弘前大学の場合だと人文社会科学部に少し偏りがあるかなと思いました。実際、理工学部や農学生命科学部などにも地域志向の高い先生もいれば、地域でドローンを活用したい場合には理工学部の先生が協力できることもあると思うので、学部の偏りの解消を狙うのも良いかなと思いました。もう1点は、市職員が、出前講座で高校や大学に出向くことがあると思うので、プレゼン力の強化も必要だと思います。普段の業務をわかりやすく伝える、魅力的に伝えることのスキルアップも併せてやると良いと思いました。市がせっかく良い取り組みしていてもプレゼンで上手く伝わっていないと勿体ないなという場面を見ることもありました。職員研修の一貫も兼ねて、強化していけるとより市の取り組みや素晴らしさが伝わることにつながるのかなと思いました。

委 員：「共通授業」や「ベンチャービジネス論」以外で事前に知っている事業は、ほとんどありませんでした。この資料を受け取った時に、すごい数の事業で市と学生は関わっているなと驚きました。「ひろさき未来創生塾」は、

大学でポスターを見た気がします。(2)の市主催のイベントについては、学生に限らず募集していたということですが、どういふのを使って募集していたのかが気になりました。

会 長：それでは、そもそも学生に情報を伝達する方法として、何か良い方法ありますか。前回の会議でも学生が地域活動に積極的に参加してもらうためには、地域を好きになってもらうことも重要なため、地域愛を育み、地域を知ってもらうことが1番だろうという意見がありました。市のことについて学生というターゲットにいろいろ情報を伝えるために、私がとても良いと思ったのは、新1年生限定で公共施設の無料パスポートを配ることだと思いました。他に、学生に市のことを伝えるための何か良い方法はありますか。

委 員：年間パスポートは、とても良いと思います。実際にやる場合は、パスポートをどうやって配布するかだと思います。先日、市のごみアプリをダウンロードして使ったら、非常にきめ細やかな情報をいただけて便利でした。例えば、年間パスポートをアプリとしてダウンロードして新1年生が使えることになれば、それをきっかけに今後も情報提供などにつなげていけるのではないかと思います。情報をどうやって伝えるかは難しいのですが、実は非常に単純で、やっぱり面白そうな企画だと人は集まるし、いくら自信があっても、人を掴めない企画には人が来ないという、それだけの話だと思います。便利なスマホアプリがあるので、何か活用することを考えて、そのきっかけとして、パスポートを配布し、バーコードなどを読み取ってできるとかであれば情報の管理をしやすくなるのではないかなと思いました。

委 員：地域愛の醸成について、私は、この地域に住んでいる人と関わり合い、ここに住んでいる人を好きになるから地域愛が生まれるということを実感しています。私は、他県出身ですが、弘前市に来て1番良かったと思ったのは、ずっとりんごのアルバイトをしていて、農家の方々と触れ合ったことで、ここに住んでいる人がどれだけ苦労してりんごを作っているかとか、農業に対してどのようなことを考えているのかという生の声を聞くことができ、その人の温かさなどを学ぶことができたからだ

と思います。絶対りんごを買うなら、長野のものじゃなくて弘前のものを買おうってなるとか。そういう経験を今の学生さんにもしてほしいと
思っていて、それに対して市は何ができるかっていうと、もっとまちづくり基本条例の中で学生を主体として位置づけていることや、まちづくりには学生力が必要ということをもっと市民にしっかりアピールして、市民にも学生をもっと活用するというか、学生に対して自分達のことを知ってもらおうとする努力を促すことが大事なのかなと思いました。先日、防災マップを見て、弘前市はすごく広いと思いました。田んぼやりんご畑など、色んなところがあって市街地がある。学生には市街地だけでなく、もっと幅広く出て行ってもらうような工夫が必要かなと思っています。

委員：学生が市からの情報をどうやって受け取っているかなど、もっと学生のことを知らなくてはいけないのではないかと強く思いました。スマートフォン、ツイッター、インスタグラムとか色々ありますが、何のツールを使って、どういう情報を見ているのかは、正直よくわからない。いきなり地方にあるちょっとした店がすごく学生に流行っている、どうやってその情報を受け取っているのだろうということがあります。そのような情報を弘前の学生はどうやって入手しているのだろうということを分析するところを市側や市民側が持たなくてはいけないのかなと思いました。

委員：市と学生の関わりを強化するうえで、まずは最初の相談窓口をみんなに知ってもらうことが必要だと思います。そして、学生が地域のために何かやりたいとなった時に、何をやる必要があるかなどがわかりやすく、手に入りやすいような情報発信が必要だと思います。

委員：学生との関わりを考えるうえでは、参加人数だけでなく、学生の参加を通じて、市は学生のどんな力を得て、どのようにまちづくりに生かしたかをしっかりと評価することが必要だと思います。

会長：それでは、次の市の附属機関への学生委員枠の設定ですが、こちらはいかがでしょう。今は、市民協働課の2つの附属機関にだけ学生枠が設定されているということですか。

事務局：そうです。大学コンソーシアムの推薦ということで学生枠を設定しています。

会長：そのような状況の中で、学生委員枠についていかがでしょうか。

委員：学生の中には弘前で生きていく、市役所で働きたいと最初から決めて、学生生活を送っている人もいます。そういう人が審議会などに参加して、採用に繋がる可能性があるインターンシップのような感じになったらいいのかなと思います。そうでなくても、こういう市政について考えている実際の現場に学生が入ると、とても勉強になると思います。いろいろな人の意見を聞いて、考えて、実際に発言するということができるので、実践力を身に着けたい学生にとっても、審議会に学生枠で入れるというのは、非常にメリットがあるのではないかと思います。学生が入れるところと入れないところはあるかもしれませんが、市民等の中に、はっきり学生と明示している弘前市としては、この制度を上手く活用していくと人材育成にもなり、学生の意見を聞くこともでき、いろいろと良いことがあるのではないかなと考えます。

委員：この審議会への参加は、メリットだと思います。私は、市役所のイメージとして、いろいろ縛りとかがあって、動きづらいところがあるのかなと思っていましたが、こんなに審議会でもらった意見を柔軟に取り入れていると知りました。ここに参加できた学生はそれを知る機会がありますが、参加していない学生は無いと思います。今はそういった体験をできる学生が市内の大学生 1 万人のうち 2 人だけなので、もっと他の学生にも機会があればいいなと思いました。

委員：市ではいろいろな審議会の委員を公募しています。そこの枠の中に大学コンソーシアムから推薦してもらえば、学生が入る余地がもっと出てくるような気がします。市民協働課の担当だけでなく、例えば市の道路をどうしていくか、文化財をこれからどうしていくかというようなところに、学生の意見を聞くために、審議会の委員に学生を入れていく必要があるのではないかと思います。

委員：公募する際に「学生も可能」みたいなことを一言書けば、推薦だけではなくて、自ら手を挙げる学生も出るかもしれない。

委員：より積極的に学生を受け入れていくことは、私も反対ではないのですが、一方で審議会に出ることの負担はとて大きいと感じています。やはり専門的知識ですとか、現場で活動しているからこそ審議会で話や意見が言えると思います。そういう形で審議会が成立しているとなると、例えば、市民協働課が窓口になっている審議会で学生のポジションがあることは、まちづくり基本条例の中で学生の役割が与えられているので、必要なことだと思いますが、何にでも学生を入れればいいのかというと、そうではないと思っています。社会経験や地域のことを知らないということもあり、審議会の雰囲気飲み込まれ、はっきりとした発言ができない学生も多いと思います。ですから、審議会への参加を通じて社会や地域を知ることは、少し重いことです。例えば公募委員に名乗りを上げ、自分で腹をくくってやるというくらいの学生のほうが審議会に学生の声を反映してもらおうという意味でも、安定感があると思います。今は選挙権も18歳からになっていますから、公募委員の募集条件を「大学生を含む」や「18歳以上」にすることも戦略ではないかと思います。公募の中に大学生を積極的に入れていく、間口を広げる位でいいのではないかと思います。学生を無理やり入れていくことは難しいので、各附属機関の特性に合わせて検討していく必要があると思います。

会長：それでは、3) 事業の参加について、現在、学生は市のこのような事業に参加していますが、これについて質問や、関心があるもの、注目すべきもの、もっとこれ増やしたらどうかなどいかがでしょうか。

委員：先ほどのりんごのアルバイトの話のようなことが、学生との地域づくりを考えるうえでは必要だと思います。市の基幹産業に触れることは、学生にとっても様々な経験になると思いますし、学生も最初からいろいろな提案ができるわけではありませんから、まずは市民が学生と地域のことを教える。学生はそれを利用して学ぶことが大事ではないかなと。例えば、交通安全のルールに関しても、もっと学生に大人が教える必要も

あるし、学生にも協力してもらいたいと思っています。それが地域づくりではないかと思っていますので、いろいろな面で市民から学生にお願いするもの、それから学生に協力して欲しいものがあると思います。それをもっと議論しなくてはならないのかなと考えていました。それから、市職員がやっているエリア担当ですが、学生も地域に出て、地域がどうなっているのか学んでほしい。もっとお互いに連携し、いろいろ学び合いながら進めていければ、地域活性化につながると思います。

会 長：これだけの学生が市の事業に参加していますが、この分野の参加をもっと増やしたらいいのではとか、企画実践とか、アルバイトとかどういふふうに学生を取り込んでいったらいいのかなど、ご意見いかがでしょうか。

委 員：弘前市は市街地もあれば、郊外の農村エリアもあります。やはり郊外に行けば行くほど、学生との関わりがどんどん薄くなってしまいうのがあり、その地域がもっと学生の力を求めて、一緒に何かしたいと思っても、なかなか学生が出向いていくのが難しいのかなと思っています。学生自身ももっと遠いところに行きたいと思っても、行くのが難しかったりしています。全てではありませんが、「学生が関わっている地域」＝「行きやすい地域」みたいになっている現状も少しあるのかなと思います。その辺りを考慮して、市内の様々な地域でバランスよく学生と関わらせることができたらいいなと思いました。

委 員：学生が支援というかお金を求めているという話もありましたので、学生が地域に出る場合にいくらか補助を出すのも良いかなと思います。遠方はなかなか行きにくいなどという問題があるのであれば、そういうものに対しての支援も一つの手ではないかなと思います。

委 員：学生のエリア担当に関しては、学生は短期間なので、ちょっとデメリットも多いかと思い、少し賛成できないかなと引っかかっていました。学生力を自分の住んでいる地域にも入れたいと思ったのは、私の地域で事業をする場合、まず実行委員会が何回も行われ、学生にはイベント当日に来てもらっています。どういうことをやっていくかというのを企画す

る、考える段階から学生に入っていた方がいいかと思いましたが、楽しいのではないかと思います。そして、なぜ市のほうにそういう窓口があればいいと言ったかという、学生を探すのは大変です。市と大学はつながっていますが、本当は市役所の中にもいろんなそういう機関につなげるパイプがあれば、そこに私達が要望持っていけば、みんなつながって情報も流れやすくなるだろうと思いました。

会 長：私は学生っていうと若いとかっていうよりも、教育学部の教師になる人、看護師や医師あるいは保健師になる人など、将来の専門家に育っていく人みたいな感じがするのですが、委員がおっしゃった事業っていうのは農業関係の話ですか。

委 員：農業だけではなく、伝統工芸など全部が含まれると思います。弘前は、歴史もありますし、農業は基幹産業で支えていかなくてはいけないものですが、その他にも守っていかなくてはいけない財産がたくさんあると思います。全部含めて、学生に魅力を知っていただきたいということもあり、そういう人はたぶん窓口やどのように学生にアプローチしたらいいかわからないと思います。

会 長：なるほど。もうターゲットが決まっていて、学生に入ってもらったり、何かをしてもらいたくて、学生を目標にしている場合にどこにどのようにルートをとっていけば、その学生を見つけられて、出会えるか。そういう仕組みがあったらいいのではないかと。

委 員：一般市民から学生は少し遠いです。学生は、しがらみがある大人と自由な子どもの微妙なところで、自由に色々なことを体験できるとても素晴らしい時期だと思います。自分達の固い頭で考えている発想じゃなくて、今まで考えてもいなかった突拍子もない面白い意見とかが出たら、いろいろな所の起爆剤になるのではないかなと思っています。学生と繋がることのできるパイプがあれば学生も市民も楽しいのではないかと考えました。

委 員：学生の力が地域に求められることはすごくありがたいと思いますが、そ

の反面、やはり大学側が学生を外に出すことを少し怖いと感じるところもあるので、そういう所もうまく折り合いをつけてやっていけたら、より良い効果を生むことができるのかなと思いました。

委員：学生が市民団体や市役所、様々な民間の方々と関わることは非常に賛成です。そういう人達の胸を借りて、いろいろなことを学んで欲しいと思うのですが、一方で、学生も一人の人間で、学生という顔もあるけれど、地域住民という顔もあります。私は、もしも学生が地域に出ていくとなった場合、特に町会とかに出ていくとすれば、地元を勧めます。継続的に実行委員会みたいな形でイベントを作る場合は、そういうプロセスに関わったほうが一番実態を知ることができ、学びにも繋がると思っています。複数の学生に参加して欲しいとなれば、大学を通じてだとか、ゼミ単位とかでやったほうが良いという部分もあると思いますが、そうすると年度単位で動かなければいけないという制約が出てきます。そこも理解してもらったうえで地域に受け入れていただくことが必要だと思います。もう一つ、やはり学生を受け入れる地域側にも、ジェンダーバイアス(※)の問題や飲酒、たばこなどの配慮が必要だと思います。学生と地域が連携する際は受け入れ側がどのように若者を育てていくかを考えることも期待したいです。

(※) 男女の役割について固定的な観念を持つこと。

会長：受け入れ側の体制については、学生と市民団体との連携について重要な視点ですよね。市民団体と学生とのまちづくりもあれば、市と市民と一緒に一つの問題をやっていく協働のまちづくりもあり、いろいろな場合があるので難しいと思います。

委員：民間も安心して任せられるつなぎ役の人材が弘前市にはすごく不足していると思います。学生をこの人に任せて、この人の考え方だったら、学びにもなるし、人とのつながりもできて、必ずプラスになる、だから安心してこの人に任せられるという人が不足していると感じています。多分、市職員が担うのも難しいと思います。なぜならば首長が変わると方針も変わり、ずっと確定されるものではない。安心して学生を出せる状況にするためには、地元の人をつながりをもっと密にしていかななくては

いけないのかなと感じています。いわばプレイヤーですよ。ほんとに足を使ってつないでくれる人。学生と市そして民間をつないでくれる人を何人か作っていくことが必要なのかなと。学生がどうしたらいいかわからないときに気軽に相談できて、意見を聞いてくれる人が必要とされているのではないかなと思います。

委員：市民団体との関係で思いつくのは子ども食堂で、子どもたちを集めて食事をするのですが、小学生の宿題の面倒を見るとか、高校生の受験勉強のお手伝いするという形で大学生が貢献しています。ボランティアの場合も、アルバイトの場合もありますが、そういう具体的な活動ってあります。いろいろな学校教育の場にも活動を広げている団体も学生のパワーをたくさん使っています。実際に団体のスタッフだけでは足りないから学生の力をたくさん借りてやっているところもあります。そういう所も忘れずに、見ていければいいなと感じます。

会長：学生力が発揮されるまちづくりを考えるうえでは、市が関連しているものだけでなく、もっと全体像を捉えるべきではないかとの意見ですね。今日は学生力が発揮される市のありようということで、いろいろと多面的にご指摘をいただけたと思っております。本日の意見を整理させていただいて、足りなかったことがあれば、また次回ご審議いただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

3 事務連絡

4 閉会